

【書評・紹介】

藤村 久和 編『アイヌの神々の物語 —四宅ヤエ媼伝承—』

(釧路, 釧路アイヌ語の会, 2015 年 10 月, B5 版, vi+254 頁, 非売品)

中 村 和 之



本書は、<sup>したく</sup>四宅ヤエ媼 (1904 年 4 月 10 日～1980 年 8 月 11 日) が伝承した 15 編のオイナ (神々の物語) を翻訳し、詳細な注を付したものである。もとは、小学館が発行した季刊誌『創造の世界』に掲載されたもので、同誌は 1971 年に創刊され、1999 年 12 月に第 112 号で終刊となった雑誌である。本書に収録された論考は、第 85 号 (1993 年 2 月) から第 111 号 (1999 年 8 月) に連載されている。『創造の世界』の最後の時期の掲載であったことがわかる。以下が本書の目次である。

まえがき 合 沢 寛

発刊にあたって 藤村久和

第 1 話 使命を忘れたオオジシギの神の物語

第 2 話 飢饉を解消した火の女神の物語

第 3 話 津波を退散させた龍王神の物語

第 4 話 自滅したトド (キタアシカ) 神の物語

第 5 話 酒宴への招待客の選定を誤ったトガリネズミの神の物語

第 6 話 食物を分け惜しんだことから毛色が赤くなってしまったキタキツネの神の物語

第 7 話 大飢饉から人々を救ったカケスの神の物語

第 8 話 飢饉から人々を救おうとしたシマフクロウの神の物語

第 9 話 兄と夫を風の女神からとりもどしたある女性の話

第 10 話 雷神の妻となったカエルの女神の物語

第 11 話 人を墮落させる眠りの神の物語

第 12 話 人を墮落させる眠りの神の物語 《別伝》

第 13 話 視力の衰えたウサギの神の物語

第 14 話 人間にいたずらをしたことで体を小さくされたマツモムシの神の物語

第 15 話 魔性を退治した滝の神の物語

掲載された雑誌の号数および発行年月

合沢寛氏の「まえがき」によれば、アイヌ語のカタカナ表記の下にローマ字表記が付されているが、これは合沢氏の表記によるものだという (i 頁)。したがって、『創造の世界』に掲載された時点ではカタカナ表記でのみあったのであろう。

本書を読んでまず気づくのは、注が詳細なことと資料の収録日時が明確であることである。評者にとっては、アイヌの口承文芸のジャンルについての解説が特に参考になった。マツチューカ ♪ またはマツチューカ ♪ とオイナとの関係、さらにポイサなどの違

いがわかりやすく説明されている（85 頁、143 頁）。また、物語の折り節（リフレイン、くり返しの句）についての説明も詳細に書かれている。そのうえ、オイナの各行に通し番号が付せられているなど、行き届いた編集である。アイヌの口承文芸を知るうえで、必読の文献となるであろう。

本書に採録されたオイナのなかで、評者が特に興味を引かれたのは、第 9 話の「兄と夫を風の女神からとりもどしたある女性の話」である。まずこの話だけ「神の物語」ではなく「ある女性の話」となっていることと、本篇と同じ内容がヤエ媼の伝承以外にはないとされていること（148 頁）が目される。話の内容は、ある女性の兄と夫が交易に行っただけで帰って来ず、帰りを待っている女性の所に、空中を飛ぶ交易船に乗った女神がやって来る。夫は船の前方に、兄は船の後方に乗っていた。女神は首飾りを女性に与えて、その代わりに兄と夫の命を貰うと告げる。女性は激しい怒りにかられて首飾りを引きちぎり、玉を女神に投げ返す。そうすると、船も女神たちも皆、急に消え失せてしまった。その後女性は泣き暮らしていたら、兄と夫が戻ってきて、「お前のおかげで助かった」と告げる。その後は女性には子供が生まれ、兄も結婚して子供が生まれて、女性は若いころの出来事を子や孫に言い伝えた、というものである。兄と夫が家を離れる理由は交易であり、しかもエゾシカやヒグマの毛皮を豪商と交易するとされている。「豪商との商売に」と訳されているところは、アイヌ語で「トノコイヨ ッ（ン）：tono koiyok」となっているが（133 頁）、トノ（殿）とは和人の商人を示すのであろうか。その交易の旅の途中で、女性の兄と夫は風の女神に拉致されてしまうのである。アイヌの交易という行為に対する観念を知るうえでも、興味深い記載である。

ではつぎに、本書を発行した釧路アイヌ語の会について紹介しよう。同会は、釧路アイヌ文化懇話会から独立する形で 1996 年に発足した。初代会長は釧路アイヌ文化懇話会の会長でもあった松本成美氏である。これまでに、以下のような刊行物を発行している。

1. 浦田遊編『アイヌ・モシリ 幻のアイヌ語誌復刊』釧路アイヌ文化懇話会、1998 年
2. 浦田遊編『アイヌ・モシリ 山本多助作品集』釧路アイヌ語の会、2002 年
3. アイヌ語釧路方言語彙編集委員会編（切替英雄監修）『アイヌ語釧路方言語彙』釧路アイヌ語の会、2004 年

本書は、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の出版助成を受けて刊行されたものであり、市販はしていない。そのため釧路アイヌ語の会は、北海道内外の主要な図書館に本書を寄贈しているとのことである。評者は、同会会員の山本悦也氏から一冊頂戴することができたため、本書の紹介をすることができたのであるが、本書の利用について不便な面があることは事実である。試みに、北海道内図書館横断検索 <http://www2.library.pref.hokkaido.jp/wo/crs/crs> を検索したところ、北海道立図書館ほか 9 館に収蔵されていることがわかった。当分はこれらを利用していくしかあるまい。ただそのような不便はありながらも、本書が刊行されたことによって、これまで利用が難しかった藤村・若月両氏の業績を閲覧しやすくなったことは事実である。本書の刊行を喜ぶとともに、本書の刊行に尽力された関係各位のご労苦に心からの敬意を表したい。

最後に、些細なことではあるが、わからないことがあった。本書の奥付では藤村久和編となっているが、背表紙では藤村久和・若月亨〔訳・註〕となっている。また藤村氏の経歴は記されているが、若月氏の経歴はなく、若月氏が本書とどのような係わりであったのかがよくわからなかった。原載の『創造の世界』を確認すればわかるのかもしれないが、筆者が調べられる範囲には雑誌がなく、確認ができなかった。

(なかむら・かずゆき／函館工業高等専門学校)